

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立玄洋高等学校

自己評価				学校関係者評価			
学校運営計画(4月)				評価(総合)			
学校運営方針	発展しゆく豊かな郷土の担い手として、「向学」「礼譲」「進取」の精神を体現できる人材を育成する。			自己評価は			
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標			A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である		
○特色化選抜入試の影響が良い方向に定着しているわけではないが、これからの、観点別評価の改善や、Chromebookの活用、玄洋メソッドの授業推進を行っている。	○ 学ぶ喜びを感じ、社会で生きるための基礎学力を持つ生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> 発達支持的生徒指導の視点からの授業改善に努め、「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的充実を図る。 観点別評価の効果的活用をとおして、生徒の主体的に学ぶ意欲の向上並びに基礎学力の定着を図る。 1人1台端末を効果的に活用する授業のあり方を研究し、個々の生徒の学ぶ意欲を最大限に引き出すよう努める。 					
○リアルタイム、部活動活性化、オンライン活動の充実等により、教員と生徒の信頼感の向上、生徒の自尊感情の向上を図ることができた。	○ 時間を守り、挨拶を行い、場に応じた服装や振る舞いができる生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> 課題予防的生徒指導の視点からの学級(学年)経営に努め、校内風紀の向上を図る。 教育相談を積極的に行い、個に応じた適切な支援に努め、生徒との信頼関係の構築を図る。 部活動の活性化等をおして、学校全体の生徒の礼節、規律等の生活習慣の向上を図る。 					
○キャリア教育の実施により、生徒の多様な進路希望を実現した。特に就職希望者の内定率100%を達成し、福岡県警現役合格等、公務員合格者の実績を上げることができた。	○ 地域社会の発展に参画し、貢献しようとする生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や地域貢献活動への参画を積極的に促し、生徒の自己肯定感や社会貢献の志を育成する。 系別・学年別に整理した進路指導計画を計画的・組織的に実施していくことで、生徒一人一人の希望進路実現を図る。 本校生徒の多様な進路先の受験方法等に関する研究を深め、各教科・科目の指導に取り入れることで、生徒全員の希望進路実現を図る(特に公務員試験対策を強化する)。 					
○公式Instagramの新規開設など、発信力を強化できた。中学校に加えて学習塾の訪問を行い、連携を強めることができた。	○ 地域との連携強化及び広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 地域の中学校との連携を密に行うことで、受け入れた生徒の個性や特徴に関する理解を深め、生徒が安全安心に高校生活を送れるよう努める。 地域と連携した学校行事を新たに企画し(現行の学校行事を地域連携の視点で見直すことを含め)、「地域とともにある学校」の実現を推進することで、本校に対する地域からの信頼を高める。 本校の手厚いキャリア教育の充実ぶりを、SNS等を用いて中学校や学習塾にアピールし、志願倍率の向上を図る。 					
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
教務	授業評価・観点別評価を効果的に活用し、授業規律の向上を図る。(時間を守る、授業開始時に黙想・挨拶を行う、私語や居眠りをしない、携帯電話を使用しない等の指導を行う。)	<ul style="list-style-type: none"> 観点別評価について教科内で評価規準を整え、生徒に周知することを通して生徒の主体的に学ぶ意欲や態度の向上及び授業規律の徹底を図る。 授業の予鈴時に教室に向かい、チャイムで着席するように促し、全教科でチャイム席指導、時間を守る指導を徹底する。 授業巡回を行い、担当者が教室の施設確認とチャイム席指導の声掛けを行うとともに、状況に応じて生徒指導課と連携し、その場に応じた指導を行うことで授業規律の向上を目指す。 					
	生徒一人一人の基礎学力の向上を図るため、義務教育段階の学び直しを促進するとともに、玄洋メソッドやタブレット型端末を活用した学習活動を行うことを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 義務教育段階の学び直しを各教科で積極的に取り入れることを通して、基礎学力の向上を図る。 タブレット型端末を活用した授業の促進を情報課と連携し、使用頻度が授業3回当たり1回となることを目指す。 玄洋メソッドを用いたわかる授業と、観点別評価を利用した、指導と評価の一体化をおして、生徒の学習意欲の向上を図る。 					
	希望の進路実現に向けた基本的な生活習慣を身につける。(遅刻者の減少・欠席者の減少)	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻カードを用いた対話による個別指導と、保護者との連携を通して、正課の遅刻の減少を図る。遅刻回数が20回を超えた時点で遅刻カード②のコピーを保護者に郵送するなど保護者との連携を深める。 学期ごとに皆勤生徒の表彰を学年集会等で行い、出席状況の改善を図る。また、各学年の年間の皆勤生徒30人表彰と出席率97%以上を目指す。 定期考査中の欠席者数と遅刻者数を減らすために、各学年2名ずつ昇降口やコモンホール・階段等で声掛けを行う。 					
情報	ICTの導入・実践を促進し、生徒の学習環境の改善、観点別評価の円滑な運用を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> Chromebookを活用した個別最適な学び、協働的な学びが実現できるよう環境を整える。また、観点別評価を効果的に行えるような方法を検討し職員へ還元する。 情報化推進委員会と共同し、ICTを活用した教育実践を調査し、今後の授業に活用するための研修を希望者対象に頻繁に開催し、職員アンケートにおいて職員のICTへの習熟度 平均80点以上を達成する。 ICT活用を含めた授業実践状況を授業アンケートにより調査し、職員全体に還元し、さらなる研鑽の機会を設ける。また、Chromebookの授業での稼働率80%を達成する。 					
	各種システム管理および、校内機器・ネットワークについて、整備・修繕し、学習環境の維持および、職員の労働環境の改善を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 一斉メール配信システム、classroom、教師生徒アカウント管理、機器登録・管理を円滑にすすめる。 導入機器の故障に対し迅速に対応するため、計画的に備品購入・整備をすすめる。 					
研修	授業改善をさらに推進し、生徒が授業でICTを日常的に活用する授業を浸透させていくことを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 各研修や授業アンケート等を通して生徒の実態や学力、学習の取り組み方を把握し、生徒の実態に応じた授業改善・推進を図る。 年2回の研究授業週間やICT研修を実施することで、Chromebookを使った授業を学校全体で実施し、ICTの積極的な活用を推進する。 専門研修(キャリアアップ講座)及び体育研究所専門研修(短期研修講座)への積極的な受講を促すとともに、各研修を通して教員の資質向上を図る。 					
	生徒の多様な特性について理解を深める取り組みを実施し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーによる校内研修を通して、生徒がもつ多様な特性と合理的配慮についての理解を深め、授業改善へとつなげる。 各分掌や学年と連携して校内研修として生徒情報交換会を実施し、生徒一人一人に必要な配慮や支援についての理解を深める。 図書委員を中心とした図書館活動を活性化させ、本に触れる生徒を増やし、豊かな感性の醸成を目指す。 					
庶務	学校行事が円滑に行われるよう計画・立案を行う。また、教員間の連絡・調整を確実に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の業務分担を明確化し、円滑に諸行事の準備を進める。 各業務の計画・立案や刊行物等の作成については、教職員間の協力体制の構築を図り、見直しをもって実施する。 各種案内を教職員に周知させる手立てとして、配布や掲示に加えてICTの活用による情報発信を行う。 					
	学校評議委員会や同窓会など地域との連携を深め、協働して行う学校行事等の計画・立案・調整をする。	<ul style="list-style-type: none"> 学校評議委員会等の会議における準備を円滑に行う。 第3学年の担当者との連携を密にし、同窓会入会式等の行事を円滑に進める。 同窓会との連絡を密に行い、執行役員会や代表幹事会等との連携を図る。 					
広報企画	広報活動を充実することで、「地域に信頼される学校づくり」を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 8月の進路相談事業と9月・11月の体験入学などで、本校の魅力や教育活動を中学生および保護者にアピールする。 本校の教育活動の理解促進や情報交換のために、中学校及び学習塾への訪問を効果的に実施し、連携を深める。 入試説明会や夜の進学相談会など、個別相談の機会を設け、本校の教育活動や入試制度を説明する。 					
	広報物やSNSなどを活用することで、本校の取組みの「見える化」を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 学校案内や広報誌「玄洋高校News」を用いて、地域や中学校に本校の取組みをアピールする。 ホームページの「玄ニヤンの声」及びInstagramを更新し、日々の様子を積極的に発信する。 					
	本校の特色や入試制度への理解を促進することで、志願倍率の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 公務員担当者や連携して広報物を作成し、公務員指導に関する理解の促進を図る。 各学年の担当者を決め、ホームページの「進路レポート」を適宜更新し、系統別の進路指導をアピールする。 部活動顧問と連携してSNSなどを適宜更新し、部活動への興味・関心を高める。 					

生徒指導	遅刻・欠席を減らすことによる基本的な生活習慣の確立を行う。また、リフレッシュタイムをとおして、教員と生徒の信頼関係を深めていく。	遅刻・欠席の家庭との連絡を密にし、毎日の基本的な生活習慣の確立に努める。 保護者（PTA）と協力し、朝の登校指導や生徒間、生徒教職員間の日々の挨拶を通して、コミュニケーション能力を高めさせる。 リフレッシュタイムを通して、生徒一人一人が校内に相談できる教員を複数もつことができるようにし、信頼関係の構築やいじめを見逃さない仕組みづくりを行う。							
	授業規律の確立を行う。	教務部と連携して、授業や集会時における礼法指導の統一を図り、挨拶の発声を徹底する。 授業を受けるにあたり、身だしなみを整えることを習慣化させる。 指導に困難を要する生徒には複数で当たり、その後の教師間による情報の共有を密に行う。							
	部活動の活性化を図る。	部活動の活性化を図るために、新入生部活動体験入部を実施する。新1年生部活動加入率の70%を目指す。 挨拶や授業態度等、部活動生としての自覚を促すために、部活動集会を通して呼びかけを行う。 広報企画課と連携し、各部活動の活動状況を、SNSを通じて、積極的に外部へ発信していく。							
保健	生徒が安心・安全で健康に学校生活を送れる環境づくりをする。	身体計測や健康相談で自身の健康状態を知り、感染症予防対策(場面に応じて、手指消毒・マスク着用・換気等)の啓発や保健教育等を通して自らの健康につながる力の向上を図る。 いじめアンケートを活用し、いじめの未然防止、早期発見・早期解決に努め、個に応じた指導・生徒理解のもと安心・安全な環境づくりをする。 学校保健委員会で情報共有・意見交換を充分に行い、学校医や地域と連携しながら学校保健活動の充実を図る。							
	校内組織や外部機関(SC、訪問相談員)との連携を強化し、発達や心に課題を抱える生徒への支援を充実させる。	学年や部活動、特別支援教育コーディネーターと連携し、支援(個別の支援計画や合理的配慮を含む)が必要な生徒の把握や、職員内での情報共有に努める。 教育相談委員会(年間12回)での情報共有や、生徒指導課のリフレッシュタイムとの連携も行うことで教育相談機能を充実させ、学校全体で生徒を見守る体制作りを図る。 SCや訪問相談員との連携を強化し、生徒に寄り添った支援を適宜できるようにする。							
	「みんなで協力して掃除をする」状況を作り、効率の良い清掃を行う。	美化委員会と連携した在庫管理を随時実施し、掃除用具の過不足がないようにする。 当番制清掃を充実させ、清掃への意識を高めながら効率の良い清掃活動を図る。 ボランティア清掃(年間12回以上)の充実、部活動にも協力を仰ぎ、学校全体を洩れなく清掃できるようにする。							
進学	基礎学力の定着を図るとともに自身の適性や能力を自覚させ、目標に向け学習に取り組めるよう支援する。	早朝・長期休業中等の時間を活用して、目標を明確にした講座等の学習支援を実施し、学力の向上及び学習習慣の定着を目指す。 基礎力診断テスト・実力診断テスト等に向けた指導を、組織的に取り組む。また、自己の学力の課題を見出し、その解決に向けて努力させ、基礎学力の定着と進路実現につなげる。 九産大・福岡大・西南学院大に合計10名以上を合格させることができるように、向上心をもって学力の構築に向けて努力させる。							
	多様なキャリア教育を展開し、生徒のコミュニケーション能力を高め、世の役に立つ人材の育成に努める。	進路学習や地域貢献活動などをとおして、他者の生き方や社会の多様な課題に気づかせ、その解決に向けて社会に役立つ人材としての自覚を養う機会を設ける。 進学説明会やアカデミックインターンシップを通して、上級学校での学びの特長を体験することにより、進路実現への動機づけをはかる。							
	進路実現に向け、保護者・教員間の連携を図り、学力・自己表現力を身につけさせる指導を行う。	担任・生徒・保護者の連携を密にして、生徒の適性や資質・能力に合致した進学の選択を行うように促す。また、奨学金に関する情報提供を適宜行い、早期より進路実現に向け準備する。 学校推薦型入試や総合型選抜入試等の多面的評価に向けて十分な準備をさせる。また、生徒の志望校合格に向けて、志望理由書や小論文の作成の指導や面接指導を効果的に行う。							
就職	地域に貢献する意欲と資質をもった生徒を教科や外部専門機関と連携を図りながら育成するよう努める。	1・2年生対象に公務員特別講座の実施や説明会を実施し、公務員希望者を各学年5名以上に拡大する。また、部活動の加入やボランティア活動への積極的な参画を促す。 3年生公務員希望者を対象に、外部専門機関と連携を図り、ガイダンスや講座など計画的に行うことで公務員試験の準備をする。また、ボランティア活動など地域貢献活動への積極的な参画を促す。							
	進路適性検査や企業見学を通して、職業を知るとともに自己理解を深め、望ましい職業観を育成する。	発達段階に応じた適性検査を全学年で実施し、その検査結果の振り返りとおして自己の資質・能力や適性についての理解を深める。 就職の学校推薦の基準について全学年で周知させ、部活動や生徒会活動、学校行事やボランティア活動等に主体的に取り組ませる。 外部機関との連携を積極的に行い、職業観・勤労観を育成し、就職に必要な社会人基礎力を身につけさせる。							
	インターンシップや社会貢献活動等の体験を通し、主体的に広く深く学び、自己の能力や適性に合致した確かな職業選択を行う契機とする。	生徒が希望する就職先を中心にインターンシップの受け入れ先を確保し、実施2か月前までに実習先を決定し、計画的に指導する。 外部機関と連携した総合的な探究の時間や進路セミナー等とおして、社会の一人としての自覚を育成する。 社会貢献活動に各学期に1回以上させることで、時間を守る・身だしなみ・敬語等の社会の一人としての自覚を育成する。							
第1学年	学習方法の指導を通じて、知識を得ることの楽しさを引き出す。【向学】	学び直しの学習を活用し、中学校段階までの学習内容の完全定着を図るとともに、高校学習内容の基礎基本の定着を図る。 Chromebook等の効果的な活用や観点別評価を通して、生徒の主体的に学習に取り組む態度を向上させ、学力の向上を図る。							
	基本的な生活習慣の確立と高校生活の充実を図る。【礼譲】	欠席・遅刻を安易にしないよう指導し、チャイム席や各集会の際に「時を守る」ことを徹底する。出席率97%以上を目指す。 校則や通学マナーの厳守を徹底させるとともに、多くのボランティアへの参加を促す。 生徒の情報を密に交換して生徒の理解を深め、教師が挨拶など率先垂範を心掛け、生徒の規範意識を向上させる指導を行う。各担任が保護者や中学校との連絡を密に取り、生徒情報の共有を図る。							
	社会及び自己の未来を見据えて、自分に適した進路を選択する能力を育成する。【進取】	アカデミックインターンシップや地域貢献活動等の体験的な活動を通して、生徒の自己肯定感を高め、進路意識の向上を図る。 進路指導部と連携した総探の時間を活用し、各系統ごとの情報提供と分析的に行い、生徒の進路目標を確定させる。							
第2学年	主体的に学習に取り組む態度を身につけることで、基礎力診断テストでのD3の脱却と上位層の増加を図る。	基礎力診断テストの事前課題であるフワウィークトライアルを授業や宿題で活用する。また、文Aクラスを対象に学びおしの課題や小テストを実施して基礎学力を向上させ、D3を40%以内にす。 安易な遅刻・欠席をしないよう指導し、チャイム席や集会に臨む態度を身につけさせ、普段から始・終業時や校内での元気な挨拶や端正な身だしなみを促し授業に主体的に参加する態度を育成する。							
	中堅学年として生徒のリーダーシップを涵養するとともに、それを支える母校愛を醸成し、自律した集団を育成する。	学年テーマである「挑戦」に基づき、部活動や資格取得試験、ボランティアなどへの積極的な参加を促し、自己肯定感・自己有用感の育成に努める。 学年リーダーや修学旅行委員を組織し、学校行事や修学旅行、学年集会などを協議しながら運営していくことで、生徒の自己指導能力を高め、学校のリーダーを育成する。							
	系別に対応した教育計画を立て、生徒自らが自分に適した進路を主体的に選択できる能力を育成する。	系別に則した内容を提供できるよう進路指導部と連携を図り、進学セミナーやインターンシップ、公務員特別講座とおして進路意識の向上を図る。 総合的な探究の時間において、企業や地域の方々や連携を図り、生徒自身がテーマや課題を設定し、その目標に対して取り組むことで、自己理解と職業理解を深め、進路に対する広い視野を育てる。							
第3学年	最終進路を見据えた学力の向上と、授業に臨む姿勢・態度の育成を図る。	授業内での姿勢や挨拶の徹底、正しい言葉遣い、身だしなみの指導を常に行う。 教室内の環境整備を行い、学習面で基礎基本の徹底と授業に集中させる。 担任と教科担当、各分掌との連携を密に行い、生徒間の情報共有を徹底する。							
	教育活動全体を通して自尊感情を高め、最上級生として各々の個性を生かしてリーダーシップを発揮し、学校全体を牽引できる集団を育成する。	学校行事の成功を目指し、学年集会や諸行事の際に生徒の得意分野で主体的に活躍できる場を設定する。 学校全体を牽引できるリーダーシップ、フォロワーシップのみならず人間性を向上させる。 様々な場面で目標設定や振り返りを行わせ、共感的な人間関係を作り、自身の成長を実感させ、達成感を持たせる。							
	社会人として必要な資質を身につけさせ、進路実現を図る。	個別指導や個人面談などの個に応じた指導を行い、適切に進路を選択できるよう働きかける。 ボランティア活動への積極的な参加を促し、社会貢献活動をすることによる自己有用感を高める。 進路指導部と連携し、各系統に応じた情報提供を生徒・保護者にも行う。							

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・
・
・
・

評価項目以外のものに関する意見

--